

さりげなき自然のこころ



生誕120年

小野竹喬展

Ono Chikkyo — 120 Years After His Birth

2009年

11月3日(火・祝)—12月20日(日)

大阪市立美術館 [天王寺公園内]

開館時間—午前9時30分—午後5時(入館は閉館の30分前まで)

休館日—月曜日(ただし11月23日は開館、翌24日休館)

主催—大阪市立美術館、毎日新聞社、NHK大阪放送局、NHKプラネット近畿

協賛—日本写真印刷、毎日ビルディング

奥の細道句抄絵 あかあかと日は難面もあきの風 1976(昭和51)年 京都国立近代美術館



夏五箇山 1919(大正8)年 笠岡市立竹喬美術館



秋陽(新冬) 1943(昭和18)年 大阪市立美術館

Ono Chikyō — 120 Years After His Birth

生誕120年 小野竹喬展

小野竹喬の風景画は、明るく清澄な画面に、光の変化や季節のかすかなうつろいまでもが表わされています。そして一年のうちのある季節、一日のうちのある時間という一端を描きながら、その作品は、自然が絶えず変化し、めぐるといふ普遍へと私達の思いを至らせます。

1889(明治22)年、現在の岡山県笠岡市に生れた小野竹喬は、14歳で瀬戸内海に面した故里を後にし、京都の竹内栖鳳に師事しました。

75年間の画業を通し、日本の自然の美しさを描き続けた竹喬ですが、<竹橋>の雅号を用いていた初期には西洋絵画への関心が強く見られ、1921(大正10)年から翌年にかけての渡欧を機に、「線」による表現へと方向を変えます。やがて南画への憧れが強まる昭和前期を経て、戦後は『奥の細道句抄絵』に代表される象徴的な表現へと画風は変化しました。そして最晩年に至って、墨彩画への挑戦を試みました。

竹喬の自然を見つめるまなざしや表現の探求は、1979(昭和54)年に89歳で亡くなるまで変わることがありませんでした。小野竹喬生誕120年にあたる本年、あらためてその生涯を代表作約100点とスケッチにより顧みます。



深雪 1955(昭和30)年



奥の細道句抄絵 まゆはきを箱にして紅粉の花 1976(昭和51)年 京都国立近代美術館



樹間の霞 1974(昭和49)年 笠岡市立竹喬美術館



日本の四季 京の灯 1974(昭和49)年 天淵屋



奥入瀬の溪流 1951(昭和26)年 東京都現代美術館

□ 記念講演会のご案内

11月7日(土)

「竹喬がめざした静寂の境地」

講師：上蘭四郎氏(笠岡市立竹喬美術館館長)

11月28日(土)

「小野竹喬の風景画～写実から象徴へ」

講師：島田康寛氏(美術評論家、立命館大学文学部教授)

■時間：いずれも午後1時30分～3時

■会場：美術館1階講演会室

■定員：150名

(当日午後1時から整理券を配布します。先着順)

□ 関連イベントのご案内

11月14日(土)

Quartett Passoによる弦楽四重奏

(京都市立芸術大学メンバー)

12月5日(土)

野島玲菜・春木浩子によるサクソフォン＆ハーブ

12月12日(土)

宮西央子によるソプラノ独奏

■時間：午後1時30分～/午後3時～

(いずれも30分程度)

■会場：美術館1階中央ホール

※いずれも聴講・鑑賞は無料ですが、本展の観覧券が必要です。

□ 観覧料

	一般	高大生
当日	1,200円	900円
前売・団体	1,000円	700円

※団体料金は20名以上

※中学生以下・障害者手帳等をお持ちの方は無料(要証明)

□ 主な前売券の発売場所

チケットぴあ各店舗 / ファミリーマート、サークルK・サンクス (Pコード:688-765) / ampm / ローソン(Lコード:56395) / セブン-イレブンなど



[交通案内]

JR・地下鉄天王寺駅、近鉄大阪阿部野橋駅下車、北西へ約400m。天王寺公園・公園ゲートよりお入りください。



大阪市立美術館 [天王寺公園内]

〒543-0063 大阪市天王寺区茶臼山町1-82

[お問合せ]

大阪市立美術館 TEL.06-6771-4874

大阪市総合コールセンター なにわコール

TEL.06-4301-7285(年中無休・8時～22時)

http://www.city.osaka.lg.jp/museum/(大阪市立美術館)

※一部作品については、展示替えがあります。

生誕120年

小野竹喬展

2009年

11月3日(火・祝) — 12月20日(日)

大阪市立美術館 〔天王寺公園内〕

開館時間 / 午前9時30分 — 午後5時 (入館は閉館の30分前まで)

休館日 / 月曜日 (ただし11月23日は開館、翌24日休館)

主催 = 大阪市立美術館、毎日新聞社、NHK大阪放送局、NHKブロード近畿

協賛 = 日本写真印刷、毎日ビルディング

小野竹喬展

2009年 11月3日(火・祝) — 12月20日(日)

前期：11月3日～23日 後期：25日～12月20日

※作品保護のため、展示期間は変更される場合があります。

●——第1章 写実画と日本画の問題

番号	作品名	形状	所蔵	展示期間	
				前期	後期
1	野之道(蕉翁句意)	軸			
2	洛外の山家	二曲一隻	笠岡市立竹喬美術館		
3	落照	二曲一隻	笠岡市立竹喬美術館		
4	花の山	二曲一隻			
5	故郷の春	軸	笠岡市立竹喬美術館		
6	暮るる冬の日	額	笠岡市立竹喬美術館		
7	港	六曲一隻	横浜美術館		
8	南国	軸	京都市立芸術大学芸術資料館		
9	露地	額	笠岡市立竹喬美術館		
10	紺糸を干す	軸	山口県立美術館		
11	南島四季のうち春秋	軸(対幅)	京都市美術館		
12	田家之春	軸	岡山県立美術館		
13	山邨春日	軸			
14	故里の景観I	額	笠岡市立竹喬美術館		
15	故里の景観Ⅱ	額	笠岡市立竹喬美術館		
16	七類	軸	笠岡市立竹喬美術館		
17	初夏之海	軸	笠岡市立竹喬美術館		
18	郊外の家	軸	笠岡市立竹喬美術館		
19	杜	額	笠岡市立竹喬美術館		
20	月ヶ瀬の梅	軸	笠岡市立竹喬美術館		
21	桃咲く頃	軸	笠岡市立竹喬美術館		
22	鳥二作(早春・冬の丘)	軸(対幅)	笠岡市立竹喬美術館		
23	宇治白川村	軸	笠岡市立竹喬美術館		
24	瀬戸内の春	軸	笠岡市立竹喬美術館		
25	郷土風景	額	京都国立近代美術館		
26	雪餘	軸	笠岡市立竹喬美術館		
27	新宮之はづれ	軸			
28	懸瀑之図	軸			
29	波切村	四曲一双	笠岡市立竹喬美術館 (飯田第一氏旧蔵、遺族寄贈)		
30	夏の五箇山	四曲一隻	笠岡市立竹喬美術館		
31	海島	二曲一双	笠岡市立竹喬美術館		
32	はぐくまるる朝	額	笠神社		
33	北国の田舎道(村道)	額	京都国立近代美術館		
34	春耕	二曲一隻	笠岡市立竹喬美術館		
35	八瀬村頭	二曲一隻	笠岡市立竹喬美術館		
36	青海	額	笠岡市立竹喬美術館		
37	波濤	軸	笠岡市立竹喬美術館		
38	冬日帖	額(2枚1組)3点	京都市美術館		
39	山	額	笠岡市立竹喬美術館		
40	風浪	二曲一隻	笠岡市立竹喬美術館		
41	山海行吟帖	画帖	笠岡市立竹喬美術館		

●——第2章 自然と私との素直な対話

番号	作品名	形状	所蔵	展示期間	
				前期	後期
42	嶋	軸	東京国立近代美術館		
43	秋陽(新冬)	額	大阪市立美術館		
44	月	額	笠岡市立竹喬美術館		
45	仲秋の月	軸	笠岡市立竹喬美術館		
46	山桜	軸	笠岡市立竹喬美術館		
47	新秋	額	笠岡市立竹喬美術館		
48	奥入瀬の溪流	額	東京都現代美術館		
49	浅春	額	上品運台寺		
50	雨の海	額	東京国立近代美術館		
51	山湖	額			
52	夕空	額	ウッドワン美術館		
53	浅春	軸			
54	深雪	額			
55	高山の月	額			
56	高原	額			
57	海	額	ワコスポーツ文化振興財団		
58	秋	額			
59	山月	額			
60	曇り日の海	額	京都府立総合資料館 (京都文化博物館管理)		
61	夕映	額	笠岡市立竹喬美術館		
62	彩秋	額			
63	黎明	額			
64	朝	額			
65	伊豆風景	額			
66	樹	額			
67	樹と雲	額			
68	白雨来る	額			
69	ヨウシュヤマゴボウ	額	岡山県立美術館		
71	比叡	額			
72	残雪	額	華鶴大塚美術館		
73	朝の海	軸			
75	湖	額	笠岡市立竹喬美術館		
77	野辺	額	笠岡市立竹喬美術館		
78	池	額	東京国立近代美術館		
79	朝	額			
80	夕茜	額	岡山県立美術館		
81	空	額			
82	雪晴々(雪晴るる)	額			
83	沼	額	京都市美術館		
85	海	額	笠岡市立竹喬美術館		
86	散り敷く紅葉	額			

番号	作品名	形状	所蔵	展示期間	
				前期	後期
88	樹	額			
89	一本の木	額	岡山県立美術館		
90	丘	額			
91	牡丹雪	額			
92	鴨川夜景	額	京都府立総合資料館 (京都文化博物館管理)		
93	竹林	額			
94	日本の四季 春の湖面	額	天満屋		
95	日本の四季 京の灯	額	天満屋		
96	日本の四季 朝霧	額	天満屋		
97	日本の四季 川の辺り	額	天満屋		
98	樹間の茜	額	笠岡市立竹喬美術館		
99	茜	軸	笠岡市立竹喬美術館		
100	奥の細道句抄絵 田一枚植ゑて立ち去る柳かな	額	京都国立近代美術館		
101	奥の細道句抄絵 笠島はいづこさつきのぬかりみち	額	京都国立近代美術館		
102	奥の細道句抄絵 まゆはきを俤にして紅粉の花	額	京都国立近代美術館		
103	奥の細道句抄絵 五月雨をあつめて早し最上川	額	京都国立近代美術館		
104	奥の細道句抄絵 涼しさやほの三か月の羽黒山	額	京都国立近代美術館		
105	奥の細道句抄絵 暑き日を海にいれたり最上川	額	京都国立近代美術館		
106	奥の細道句抄絵 象潟や雨に西施がねぶの花	額	京都国立近代美術館		
107	奥の細道句抄絵 荒海や佐渡に横たふ天の河	額	京都国立近代美術館		
108	奥の細道句抄絵 あかあかと日は難面もあきの風	額	京都国立近代美術館		
109	奥の細道句抄絵 浪の間や小貝にまじる萩の塵	額	京都国立近代美術館		
110	茜さす海	軸	高島屋史料館		
111	西穂高高原	額			
113	雨霽	額			
114	茜	軸	高島屋史料館		
115	風雨	軸	高島屋史料館		
116	山雲	軸	高島屋史料館		
117	夜の雲	軸			
118	樹雪	軸	上品蓮台寺		
119	彩雪	額	ワコスポーツ・文化振興財団		

● 素描

番号	作品名	所蔵	展示期間	
			前期	後期
D-1	大悲山	笠岡市立竹喬美術館		
D-2	京の風景	笠岡市立竹喬美術館		
D-3	郷土風景	笠岡市立竹喬美術館		
D-4	神島	笠岡市立竹喬美術館		
D-5	鳥二作	笠岡市立竹喬美術館		
D-6	夏の五箇山 西赤尾付近	笠岡市立竹喬美術館		
D-7	郷土風景II	笠岡市立竹喬美術館		
D-8	波切村I	笠岡市立竹喬美術館		
D-9	波切村VII	笠岡市立竹喬美術館		
D-10	盛夏の海	笠岡市立竹喬美術館		

D-11	村道スケッチI	笠岡市立竹喬美術館		
D-12	春耕	笠岡市立竹喬美術館		
D-13	八瀬村頭III	笠岡市立竹喬美術館		
D-14	峡の道	笠岡市立竹喬美術館		
D-15	山腹	笠岡市立竹喬美術館		
D-16	夕雲			
D-17	茜映ゆ	笠岡市立竹喬美術館		
D-18	黒潮	笠岡市立竹喬美術館		
D-19	西の空			
D-20	乗鞍山頂近く	笠岡市立竹喬美術館		
D-21	風の五色沼	笠岡市立竹喬美術館		

番号	作品名	作者(竹喬以外)	所蔵	展示期間	
				前期	後期

● 特集展示-I

I-1	セース河岸		笠岡市立竹喬美術館		
I-2	ルノアールの居を訪ふ道		笠岡市立竹喬美術館		
I-3	ピサの街		笠岡市立竹喬美術館		
I-4	ボルゲーゼの庭		笠岡市立竹喬美術館		
I-5	コロセオ		笠岡市立竹喬美術館		
I-6	聖ボナベントレ僧院		笠岡市立竹喬美術館		
I-7	ソレントとカプリ		笠岡市立竹喬美術館		
I-8	アッシジの町		笠岡市立竹喬美術館		
I-9	ポンテ・ヴェッキオ		笠岡市立竹喬美術館		
I-10	聖ジョルジオ・ヂ・マジオレ		笠岡市立竹喬美術館		
I-11	ピアツァ・デル・ツォモ		笠岡市立竹喬美術館		
I-12	公園の日あたり		笠岡市立竹喬美術館		
I-13	エスコリアル遠望I		笠岡市立竹喬美術館		
I-14	エスコリアル町		笠岡市立竹喬美術館		
I-15	丘上廃寺		笠岡市立竹喬美術館		
I-16	オリーブの老樹(カーニュの風景)	土田麦僊			
I-17	ルノアールの庭(ルノアールの家)	土田麦僊			
I-18	聖シスト寺(ピサの街)	土田麦僊			
I-19	聖グレゴリオの広場(ローマにて)	土田麦僊			
I-20	ポンテ・ヴェッキオ	土田麦僊	笠岡市立竹喬美術館		
I-21	ヴェティユ風景	土田麦僊			

● 特集展示-II

II-1	田圃I		笠岡市立竹喬美術館		
II-2	羽黒山		笠岡市立竹喬美術館		
II-3	日本海I		笠岡市立竹喬美術館		
II-4	日本海II		笠岡市立竹喬美術館		
II-5	最上川碁点		笠岡市立竹喬美術館		
II-6	種の浜		笠岡市立竹喬美術館		
II-7	ますほの小貝		笠岡市立竹喬美術館		
II-8	笠島		笠岡市立竹喬美術館		
II-9	道祖神附近		笠岡市立竹喬美術館		
II-10	紅花II		笠岡市立竹喬美術館		